



【開催趣旨】

日本の美意識を色と模様に表した「きもの」。その原型である小袖は、室町時代後期より、染や刺繡、金銀の箔などで模様を表し、表着として花開きました。美しい彩られたきものが着用され始めた江戸時代、町を行き交う人々がファッショニスタでした。明治・大正時代には、型友禅や鎌仙など近代的な技術を駆使したきものが流行。戦後、きものはモードの一線を離れ、現代アートを志向するデザインが登場しました。きものは、現代に至るまで多様に展開しながら成長し続ける日本独自の美の世界を表現しています。

本展では、信長・秀吉・家康・篤姫など歴史上の著名人が着用したきものや、尾形光琳直筆の小袖に加え、「観楓図屏風」「婦女遊楽図屏風（松浦屏風）」など、きものが描かれた国宝の絵画作品、さらに現代デザイナーによるきものなど200件以上の作品を一堂に展示します。800年以上を生き抜き、今なお新たなファッション・シーンを繰り広げる「きもの」を、現代を生きる日本文化の象徴として展覧し、その過去・現在・未来を見つめる機会とします。質・量ともに世界最大のきものコレクションを有する東京国立博物館で開催する、空前絶後のきもの展です。

きもの

KIMONO

Fashioning
Identities

【展覧会名】特別展「きもの KIMONO」

2020年4月14日(火)～6月7日(日)

前期展示：4月14日(火)～5月10日(日) 後期展示：5月12日(火)～6月7日(日)

TNM 東京国立博物館 平成館

TOKYO NATIONAL MUSEUM (UENO PARK)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館ウェブサイト：

<https://www.tnm.jp/>

【交通】JR上野駅公園口・鷺谷駅南口より徒歩10分

東京メトロ銀座線・日比谷線・東京メトロ千代田線銀座駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分

【開館時間】午前9時30分～午後5時 ※金曜・土曜は午後9時まで開館 ※入館は閉館の30分前まで

【休館日】月曜日（ただし5月4日[月・祝]は開館）

【主催】東京国立博物館、朝日新聞社、テレビ朝日、文化庁、日本芸術文化振興会

【観覧料（税込）】

	当日券	前売券	団体券
一般	1,700円	1,500円	1,400円
大学生	1,200円	1,000円	900円
高校生	900円	700円	600円

※中学生以下無料

※団体は20名以上

※障がい者とその介護者1名は無料（入館の際に障がい者手帳などをご提示ください）

※前売券は2020年1月29日（水）から4月13日（月）までの間、東京国立博物館正門チケット売場（窓口、開館日のみ、閉館の30分前まで）、展覧会公式サイト、各種プレイガイドにて販売。

【展覧会公式サイト】<https://kimonoten2020.exhibit.jp/>

【展覧会公式Twitter】@kimonoten2020

【お問い合わせ】03-5777-8600（ハローダイヤル）

【報道関係お問合せ】特別展「きもの KIMONO」広報事務局（共同PR内）担当：三井、谷川

TEL: 04-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル7階

TEL: 03-3575-9823 FAX: 0120-653-545

E-mail: kimonoten2020-pr@kyodo-pr.co.jp



日本文化

文化庁

beyond 2020

2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

展覧会の見どころ

鎌倉時代から現代までを通観する、初めての大規模きもの展！

鎌倉時代から現代までを通史的に総観する、かつてない規模のきものの展覧会です。加えて、東京国立博物館では1973年に特別展「日本の染織」を開催して以来、47年ぶりとなる大規模な染織の展覧会となります。本展では、国宝、重要文化財を含む染織作品、屏風や浮世絵などの絵画作品によって、きもの壮大な歴史絵巻を繰り広げます。

尾形光琳は、宝永元年（1704）京都から江戸へ向かった。最初に寄宿したのが深川の材木商・冬木家。当時、裕福な商業の女性たちの間で有名な絵師に描かせた絵画の小袖が流行した。本品は、世話をなった冬木家の奥方のために描いたと伝えられる。



尾形光琳は、江戸での寄宿先である深川の材木商・冬木家に滞在中、冬木家の奥方のために白小袖に秋草図を描きました。光琳は呉服商雁金屋に生まれましたが、彼が直接小袖に描いた作品のうち完全なきものの形で遺されてきた真筆は、「冬木小袖」の名称で知られるこの1領のみです。

光琳「冬木小袖」が登場。

1章 モードの誕生

慶長（元和年間）、日本に滞在したスペインの貿易商人、アビラ・ヒンズは、日本のきものは「すばらしい布地にきれいで、色とりして、金をちらりめ、美しい刺繡をほどこした絹地でできている」と『日本王國記』に記しました。室町時代から戸時代初期にかけて描かれた女性の肖像画や風俗図屏風、安土桃山時代の小袖の数々を通して、当時の華やかなファッションを再現します。

